

令和6年度第1回大船渡市立博物館協議会 議事録

開催日時：令和6年6月6日（木）午前10時～11時

開催場所：大船渡市立博物館 多目的ホール

出席者：【委員5名】

西村文利、熊谷美知子、佐藤真優子、千田房代、大場江利子

【事務局6名】

教育長 小松伸也、教育次長 伊藤真紀子、博物館長 鈴木満広、
館長補佐 佐藤貴裕、係長 村田匠、主任学芸員 古澤明輝

1 開 会

鈴木館長の司会で開会。5人の委員の出席で協議会が成立していることを報告。

2 挨拶

小松教育長
西村会長

ここからは、大船渡市立博物館管理運営規則第9条第2項の規定により、西村会長が議長となり進行。

3 報 告

- (1) 令和5年度大船渡市立博物館事業実績について
事務局から昨年度の事業実績について説明した。

(委員)

仙台第一高等学校（347人）が来館の際、どのようなローテーションで受け入れられているか。

(事務局)

仙台第一高等学校は、1年生8クラスを4クラスずつ交代で2日間に渡って受け入れている。午前午後それぞれ2クラスずつに分かれ、初めに1クラス40人で当館の説明映像を見ていただき、その後、学芸員が説明しながら地質展示室と考古展示室で20人ずつに分かれ見学し、全部で1時間程度ずつ案内している。

今年も7月に来館するが、担当教諭が以前に気仙地域で化石の研究を行ったことがあるため、生徒たちに当館を見せたいということで、一昨年から来館している。

(教育長)

博物館協議会は年1回開催しているが、昨年度の協議会で課題等の意見などは計画などに反映されているのか。

(事務局)

昨年度は課題等の意見などはなかった。

イベントや企画展等については、博物館友の会通信の送付などを行いながらお知らせしている。

委員さんからご意見等がある場合は、協議会の場だけでなく、その都度いただきたいと考えている。

(教育長)

ジオパークかわらばんは、気仙地区だけで実施しているのか。

(事務局)

元々、当館が始めた事業である。その後、ジオパークに広げ、三陸ジオパークけせん地域協議会が気仙地区で実施し、昨年度から三陸ジオパーク推進協議会が実施して、気仙地区のほか、釜石市、宮古市、岩泉町も参加し、どんどん広がっている。

4 協 議

- (1) 令和6年度大船渡市立博物館事業計画について
事務局から今年度の事業計画について説明した。

(委員)

保護者が博物館と一緒に来て地域の歴史等を学ぶ機会があっても良いと思う。
学校では博物館を活用しているが、地域の子供会が活用できるようPRできないか。

(事務局)

毎年、学校単位では活用していただいているが、地域の子供会としての活用はここ1、2年では実績がない。

地域の子供会が当館をどのように活用できるか、当館に来れば学芸員が説明を聞きながら見学できるなどのPRが少ないところはあると思う。

今後、学校等を通じて、当館での団体受入れや夏休みの自由研究をお手伝いするなど、どのようにすれば当館を活用してもらえるか、PRの方法も含め検討したい。

(委員)

短時間で小学校1年生でも何かを作れるなど、親子で楽しめるコースをつくりPRができれば良いと思う。

(事務局)

明日、学芸員等が大船渡北小学校に行き、1年生のPTAとともにレプリカづくりを行う。

(委員)

そのような活動を増やしてほしい。

(教育長)

過去には、末崎地区の子供会が土器製作会等の博物館事業に合わせて来館したことがある。

(委員)

釣針展を企画しているが、ニーズがあって企画したのか。

(事務局)

釣針の製作に関しては、東松島市で体験活動を実施しており好評と聞いている。また、市内の遺跡から釣針が多く出ていることから、地域の歴史を体験してもらうため企画した。

(委員)

子供が夏休みの自由研究の際、鹿の角で釣針を作り、その釣針で魚釣りをを行い、釣れた時はとても喜んだが、今回は何で釣針を製作するのか。

(事務局)

鹿の角で製作したいと考えているが、当時と同じ方法で釣針を作るにはかなり時間が必要なため、限られた時間で安全に作るにはどのような方法が良いか検討している。

(議長)

博物館には、いろいろ知らないことや楽しいことがあるなど、子供会に限らず学校を通じて行えば、PRできると思う。

(議長)

ほかに意見はないか。今年度事業に限らず、博物館の運営に関して委員の皆様の意見をいただきたい。

(委員)

新聞で日本最古の植物化石が当市で発見されたことや、5月11日にリアスホールで開催した講演会を聴講し、地質や化石というと地味に感じていたが、当市はすごい地域であるということを実感した。

子供の時から地元の歴史等に触れることの大切さを感じるとともに、これらを周知して行ってほしいと思う。

また、高齢者にも博物館を見ていただくと新たに感じることでくるのではないかと思う。

(委員)

昨年度、子供が気仙地区理科教育研究会に参加したが、参加者が2名しかおらず、ジオパークかわらばん参加者に周知できれば良いと思う。

(議長)

知らない人が多いので、いろいろな方法でPRしてほしい。

(委員)

碁石海岸に博物館があることを知らない人が多いと感じている。

また、博物館では、シアターで津波の映像等を放映しているということを市民でもあまり知られていないと思う。

津波の映像はある程度見たい人がいるので、そこをPRするだけでも来館者が増えると思う。

旅行ツアーとしては、屋内で座って映像が見られるようなところはツアーとして組みやすく、ジオパークと組み合わせてPRしたい。

博物館がジオパーク拠点施設であり、楽しく、気軽に見学できる場所であることをもっとPRしてほしい。

(委員)

博物館は、碁石海岸という市の中心地から遠い場所にあるが、博物館スクールの際、バスを準備していただけるということが学校としてはありがたい。

バスが利用できるということであれば、学校の年間計画にも組み込みやすく、子供たちが大船渡の歴史を学ぶことから、その点をもっとPRしてほしい。

また、博物館は海が近いので、自分たちの身近な海をPRするとともに、楽しい企画を検討してほしい。

(議長)

今年度から始めたつばきまつりに伴う無料入館共通券の配布は、博物館へのきっかけづくりとしては大変良いと感じた。

(議長)

委員の皆様からいただいた意見を、今後の博物館事業に生かしていただくようお願いする。

5 その他

委員及び事務局から特に発言なし。

6 閉 会

鈴木館長が閉会を宣言。午前11時終了。